

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義Ⅰ（社会福祉原論）	星野 政明	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

社会福祉学理論の構成要因である幾つかの主要理論(主体性・共通性・権利性)の哲学的、思想的背景を、ノーマライゼーション原理との関連のなかで講述し、また戦後の社会福祉学理論や現在の社会福祉思想の検討を行い、ノーマライゼーション原理が社会福祉学の基礎原理であることを解明する。

到達目標 (SBOs)

学位論文を創造的アカデミックに、進化した研究内容を目指す。その内容を社会に還元し福祉世界に寄与することを目標とする。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

R.J.Cootes の “The Making of the Welfare State” の原著を精読して、大意を述べよ。(英文)

第2回レポート課題

『社会福祉の三つのモデル』の訳書のタイトル第1章～第12章を通読してピンカーの協調するエッセンスは、4点あると考えられる。それを要約的に述べよ。(和文)

第3回レポート課題

21世紀の社会福祉について、『社会福祉の源流を行く』全体を精読して各自の未来展望について述べよ。(社会福祉は伝統的に共同体社会の道を歩んできた。それは西暦紀元前4000年からの道のりであった)(和文)

テキスト

1. 飯田精一著 『社会福祉の源流を行く』 近代文芸社 2006
2. ロバート・ピンカー著 『社会福祉三つのモデルー福祉原理の探究』 黎明書房 2003
3. メアリー・E・リッチモンド著 杉本一義訳 『人間の発見と形成 WHAT SOCIAL CASEWORK』

参考書・参考資料等

1. 中園康夫著 『ノーマライゼーション原理の研究』 海声社 1996
2. 仲村優一他監修 『エンサイクロペディア社会福祉学』 中央法規 2007
3. 上田千秋著 『オウエンとニュー・ハーモニー』 ミネルヴァ書房 1984
4. 日野原重明訳 『オスラー博士講演集 平静の心』 医学書院 1984
5. 多田英範編著 『世界はなぜ社会保障制度を創ったのか 主要9カ国の比較研究』 ミネルヴァ書房 2014
6. 星野政明他監修 『その人らしさをいかに医療介護福祉』 あいり出版
7. 中村剛著 『井深八重の生涯に学ぶ“ほんとうの幸福”とは何か』 あいり出版
8. 星野政明他編著 『社会福祉原論』 黎明書房 2006
9. その他、必要に応じて紹介する

学生に対する評価

上記レポート3回の課題より総合して評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義Ⅱ（社会福祉思想論）	栗栖 照雄	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

現在、日本において社会福祉思想を研究するフレームとして次のようなカテゴリーが提案されている（中野伸彦「社会福祉哲学・思想研究の動向」『社会福祉の課題と研究動向』中央法規より）。

- (1) 「実践の根拠」（実践的行為のエートスの考察）
- (2) 「価値や倫理の根拠」（対人援助現場の関係性の考察）
- (3) 「福祉理念型の根拠」（社会福祉の学的パラダイムの考察）
- (4) 「哲学・思想史との連関」（哲学・思想と福祉的事象との関連の考察）

本講義においては、院生が（1）から（4）までのカテゴリー全体を視野に入れ、各カテゴリーにおける課題を自己自身の課題として内面化しつつ考察することによって、院生自身が全体に通底する独自の思想を創出していくことを目指す。研究方法としては、テキストのみならず広範囲にわたる文献・資料の検索・講読と、深く徹底した自己省察である。

到達目標 (SBOs)

- (1) 「実践の根拠」：当事者の言説に直接触れることを通して、福祉活動の代表的なエートスを内面化して会得したうえで、院生自らの言葉で当事者の実践活動の根拠を表明できる。
- (2) 「価値や倫理の根拠」：対人援助の現場における関係性に関して、技術的に基礎づける理論ではなく、関係性そのものを質的に規定する原理（思想）を探究し、院生自らの言葉でその原理を表明できる。
- (3) 「福祉理念型の根拠」：社会福祉研究全体を体系化する試みを通覧して、学的パラダイムを支える基礎的な概念と範疇を抽出し、院生自らの言葉でその概念と範疇を表明できる。
- (4) 「哲学・思想史との連関」：特に現代の社会福祉理論形成に決定的な影響を与えた古典的な宗教・哲学・倫理・自然思想に関して、個別の思想内容と共に、それらの歴史的連関を、院生自らの言葉で説明できる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

社会福祉活動のエートスを実践当事者の言説から読み取り、エートス形成に影響を与えた古典思想に遡源しつつ、院生自身の思想として内面化し言説化する。テキスト『福祉の思想』

第2回レポート課題

対人援助現場における諸関係の特徴と、その関係性を規定する原理（思想）を、古典思想に遡源しつつ、究明する。テキスト『ケースワークの原則』

第3回レポート課題

岡村重夫による試みをはじめとする、社会福祉の学的体系化の試みを考察する。体系化のための基礎概念と基礎範疇を抽出して、その妥当性を検証する。テキスト『社会福祉原論』

テキスト

- ①『福祉の思想』糸賀一雄著、日本放送出版協会
- ②『ケースワークの原則（新訳版）』F.P.バイステック（尾崎新他訳）誠信書房
- ③『社会福祉原論』岡村重夫著、全国社会福祉協議会

参考書・参考資料等

- ①『ハイデッガー;ツォリコーン・ゼミナール』メダルト・ボス編、木村敏他訳、みすず書房
- ②『社会福祉の歴史』ロバート・ブレムナー著、栗栖照雄他訳、相川書房
- ③『人生観の哲学』栗栖照雄他著、西日本法規出版(現・ふくろう出版)
- ④『ケアの本質』ミルトン・メイヤロフ著、田村真訳、ゆみる書房
- ⑤『社会福祉の動向と課題』栗栖照雄他著、中央法規出版
- ⑥『ソーシャルワークの価値と倫理』フレデリック・リーマー著、秋山智久監訳、中央法規出版
- ⑦『社会福祉の思想と人間観』嶋田啓一郎監修、ミネルヴァ書房
- ⑧『人間福祉の思想と実践』住谷馨他編著、ミネルヴァ書房
- ⑨『ソーシャル・ワーク実践とエコシステム』太田義弘著、誠信書房
- ⑩『ジェネラル・ソーシャルワーク』太田義弘編著、光生館
- ⑪『日本の社会福祉思想』吉田久一著、勁草書房
- ⑫『福祉の哲学』阿部志郎著、誠信書房
- ⑬『ソーシャルワーク実践への道』小関康之他編著、角川書店
- ⑭『介護福祉教育の方法と実践』栗栖照雄他編著、角川書店

学生に対する評価

3回のレポート、科目修了試験の成績に基づいて、総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義Ⅲ（地域福祉論）	川崎 順子	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（GIO）

日本独自の理念として発展してきた地域福祉は、1970年代から理論化されてきた。そして、2000年の社会福祉法には地域福祉の推進が位置づけられ、さらに今日では、地域共生社会の実現に向けた支援体制の構築が目指されている。つまり、地域福祉の主流化から施策化へと進んできているといえる。本講義では、これまでの地域福祉の理論的枠組みと実践の歴史的発展の経緯を再確認し、地域を基盤としたソーシャルワークを展望するあたり、地域福祉の観点から考究していく。

到達目標（SBOs）

1. 日本における地域福祉の歴史と展開から、地域福祉の概念と定義を理解する。
2. 理論的枠組みの全体像をとらえ、それぞれの特徴を説明できる。
3. 地域福祉に関わる法制度の変遷から、地域福祉施策の現状と課題を考察することができる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

テキスト「地域福祉論」を熟読し、他の図書や先行研究を参考にして、1) 岡村が位置づけている地域福祉の構成要素の概要をまとめてください。また、2) 他の地域福祉研究者の理論の位置づけと比較したうえで岡村理論の特徴をまとめ、考察してください。（1～2）（6,000字以内、6月末）

第2回レポート課題

1) 1970年から2000年代今日までの地域福祉の発展過程をまとめてください。また、2) 地域福祉の推進主体や推進方法について概説し、重要な論点を整理してください。（1～2）（6,000字以内、9月末）

第3回レポート課題

1) 地域福祉の観点から2000年以降これまでの社会福祉法改正の経緯を概説し、地域福祉の施策化の動向について現状と課題をまとめてください。2) 地域を基盤としたソーシャルワークを展開するにあたり、住民主体の形成に向けた今後の地域福祉を展望してください。（3）（6,000字以内、11月末）

テキスト

1. 岡村重夫（2009）「地域福祉論」光生館
2. 岩間伸之・原田正樹（2019）「地域福祉援助をつかむ」有斐閣
3. 川島ゆり子・永田祐他（2019）「しっかり学べる社会福祉3 地域福祉論」ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

1. 武川正吾（2006）「地域福祉の主流化」法律文化社
2. 川村匡由（2007）「地域福祉とソーシャルガバナンス」中央法規
3. 牧里毎治・山本隆（2008）「住民主体の地域福祉論—理論と実践—」法律文化社
4. 原田正樹（2014）「地域福祉の基盤づくり—推進主体の形成—」中央法規
5. 荒川達郎・川島典子（2019）「地域福祉政策論」学文社
6. 平野隆之（2020）「地域福祉マネジメント」有斐閣
7. 日本地域福祉学会（2006）「地域福祉辞典」中央法規 その他 地域福祉に関する報告書や論文

学生に対する評価

3回のレポート内容及び科目試験において総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義Ⅳ（コミュニティ・ソーシャルワーク論）	平川 忠敏	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

個人の能力の改善や向上といった視点だけでなく、社会を個人に適応させ、個人と社会の両者の関係性の改善を図る、という視点に立つコミュニティアプローチを展開し「地域で共に暮らす」ための理論を学び、実践を展開する。

到達目標（SBOs）

個人も彼を取り巻く環境も同時に診断し、個人にも環境にも働きかける方法論を身に着けそれを実践できるようになる。たとえば、コンサルテーションの技法を用いて、個人を取り巻くキーパーソンへアプローチし、環境の変化をもたらし、ハンディキャップがあっても不自由しない生活を送れるようにすることができるようになる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

セルフヘルプグループ、エンパワーメント、レジリエンスの概念を説明し、社会的弱者は決して援助を必要とする存在ではなくてもともと多くの力を持っている主体的な存在であることを例を挙げて説明しなさい。

第2回レポート課題

共生、ノーマライゼーション、コミュニティオーガニゼーションの概念を説明し、これらの概念に基づいた具体的な事例を本や雑誌から見つけ出して報告しなさい。

第3回レポート課題

コミュニティエンパワーメントの事例に関する英語の文献を読んでレポートしなさい。

テキスト

1. 植村勝彦編著「コミュニティ心理学入門」ナカニシヤ出版
2. 植村勝彦他編著「よく分かるコミュニティ心理学」ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

1. 山本和郎 監訳コミュニティ心理学－理論と実践－1997 ミネルヴァ書房 (Orford, J. Community Psychology: Theory and Practice John Wiley & Sons. 1992)
2. 山本和郎 著 コミュニティ心理学－地域臨床の理論と実践－東京大学出版会 1986
3. 山本和郎 他編著 臨床・コミュニティ心理学 ——臨床心理学的地域援助の基礎知識—— ミネルヴァ書房 2000
4. 箕口雅博 臨床心理地域援助特論 放送大学教育振興会 2007
5. 笹尾敏明 訳 コミュニティ心理学－個人とコミュニティを結ぶ実践人間科学－金子書房 2007 (Dalton, J.H., Elias, M.J. & Wandersman, A. Community Psychology: Linking Individuals and Communities. Stanford, CT: Wadsworth)

学生に対する評価

レポート3回合格し、科目修了試験において評価。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義Ⅴ（権利擁護論）	横山 奈緒枝	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

ソーシャルワーカー（以下、SW）に求められる「権利擁護」の観点を、社会福祉の価値観を捉えながら学び取る。権利擁護の理念や哲学的根拠を探りながら、実践場面において人間の権利が損なわれている諸現象について具体的に検討する。この検討を通して、生命の尊厳と支援の意義を理解する。権利擁護のための実践で抱えざるを得ない諸課題をジレンマとしてその複雑さを認識し、意思決定や自立等の支援、共生社会の構築の課題とつなげ、コロナ禍によって重要性が増すSWの権利擁護の実践への理解を深める。

到達目標 (SBOs)

履修生各自の関心領域（例：高齢・障害・児童・就労・地域生活他）における虐待や差別問題等の権利侵害の実状を説明できる。それらの問題について、社会福祉の価値観を基軸に自身の意見や考えを表現できる。理念や法、哲学的根拠等を用いて適切に対応課題を解説できる。実践で生じるジレンマという二重構造、その対応の困難さや矛盾、また密着度の高い関係性（例：相互依存、複数の課題が込み入った状態、共生に伴う摩擦他）等を理解し、それらの複雑で解決し難い状態への対応策を論理的に考察できる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

社会福祉領域における「権利擁護」の定義や理念を解説し、ソーシャルワークの専門職が権利擁護に関わることの重要性を、①社会福祉の価値観（さまざまな内容から履修生が重要と考えるものを選定）と、②社会福祉士の倫理綱領の内容に触れながら説明してください（4000字程度）。（6月末）

第2回レポート課題

SWの実践事例（履修生自身の事例、書籍からの引用も可）を選定し、その事例にみられるジレンマ現象（相反する立場、意識や考え方の差異の要素、対応経過等）を解説してください。また事例も活かし、当事者への意思決定支援においてSWが留意すべきことを考察し、論述してください（4000字程度）。（9月末）

第3回レポート課題

関心を寄せる領域における虐待や差別、人間間の摩擦等、権利が侵害されていると思われる事例（履修生自身の事例、書籍からの引用も可）を選定し、その概要、法的手立て、解決策・防止策と、そのような事例に向き合うSWの立脚すべき理念、人間の尊厳への考え方、課題等を述べてください。今回のレポートでは他国の考え方について原著を最低1点翻訳し活かしながら論述してください（4000字程度）。（11月末）

テキスト

秋元美世・平田厚（2015）「社会福祉と権利擁護—人権のための理論と実践—」（有斐閣アルマ）

参考書・参考資料等

1. 日本福祉大学権利擁護研究センター（2018）「権利擁護がわかる意思決定支援」ミネルヴァ書房
2. 秋元美世（2010）「社会福祉の利用者と人権—利用者像の多様化と権利保障」有斐閣
3. 菅富美枝（2010）「イギリス成年後見制度にみる自律支援の法理」ミネルヴァ書房
4. 日田剛（2020）「ソーシャルワークにおける権利擁護とはなにか」旬報社
5. A・クライマン他編（2011）「他者の苦しみへの責任」みすず書房
6. 加藤博史（2013）「社会福祉の定義と価値の展開」龍谷叢書XXXⅡ ミネルヴァ書房
7. 稲沢公一（2015）「援助者が臨床に踏みとどまるとき」誠信書房
8. 広井良典編（2017）「福祉の哲学とは何か」ミネルヴァ書房
9. 公益社団法人日本社会福祉士会ホームページ「意思決定支援を踏まえた後見事務ガイドライン」

学生に対する評価

レポートに3回合格することを前提とし、科目修了試験の成績により評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義VI (東洋介護福祉論)	渡邊 一平	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

日本語の「介護」と「介護福祉」は、それぞれ異なる意味で用いられる場合がある。介護の現場では、少なからず医療と生活支援を併せ持つ内容が求められ、また介護福祉領域では、身体的、心理的、社会的な関わりが必要とされる。それぞれに異なる意味を有してはいるが、いずれも人間理解が必要とされる点に共通因子がある。この介護・介護福祉の本質を捉えるため、本講義では、こころと身体の関係、あるいは環境(場)と身体に関わり、科学的研究の実際と限界に関する内容を、科学的視点(現代医学的視点)を比較対象として、全体論を基軸とする東洋医学的視点から捉える。そのことにより、医療、福祉、介護はもとより、カウンセリングやメンテナンスなど、非常に多義的な意味を内包している care の意義を理解する。

到達目標 (SBOs)

- 1) 心身一如などに表される東洋医学のこころと身体のとらえ方、関係性について理解できる。
- 2) 方法論からみた科学的思考法の意義と限界について理解できる。
- 3) 自己とは何か? 他者とは何かについて理解でき、介護福祉における「自立」の意義について考察できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

「東洋医学からみたこころと身体の関係について」

テキスト『東洋医学を知っていますか. P14-82』を参照し、気・陰陽論・五行論などの概念を理解した上で、「心身一如」と表される東洋医学の整体観についてまとめる。また、東洋医学思想の「陰陽論」から「こころと身体の関係」、臓腑論から「こころの所在」について理解し、こころと身体の関係について各自の考えをまとめる。

第2回レポート課題

「科学的研究法の意義と限界」

二重盲検試験(double blind test)や根拠に基づいた医療(EBM: Evidence Based Medicine)などに象徴される科学的研究は、どのような条件下で行われ、それは実際の生命現象と何が異なるのか、テキスト『生物と無生物のあいだ』、あるいは他の参考文献を読み、科学的研究法の意義と限界について各自の考えをまとめる。

第3回レポート課題

「自立とは何か?」

テキスト『悲鳴をあげる身体』を読み、そこへ第1回レポートで学習した東洋医学の陰陽論、心身論を絡めることで、自己の存在意義と他者(環境)との関係性の観点から、介護福祉にとってキーワードとなる「自立とは何か?」について各自の意見をまとめる(なお、参考文献の4.『老人ケアの社会学』が参考となる)。

テキスト

- 1) 東洋医学を知っていますか：三浦於菟. 新潮社. 978-4-10-600495-7 . 1,100 円
- 2) 生物と無生物のあいだ：福岡伸一. 講談社現代新書. 978-4-06-149891-4. 880 円
- 3) 悲鳴をあげる身体：鷺田清一. PHP 新書. 978-4-569-60309-4. 657 円

参考書・参考資料等

- 1) スティーブン・ロック、ダグラス・コリガン著、田中 彰ら訳、池見酉次郎監修：内なる治癒力. ころと免疫をめぐる新しい医学. 創元社
- 2) アンドルー・ワイル著、上野圭一訳：癒す心、治る力. 角川書店
- 3) 石田秀実著：気流れる身体. 平河出版.
- 4) 木下康仁著：老人ケアの社会学. 医学書院
- 5) 栗栖照雄ら編著：介護福祉教育の方法と実践. 新しいケアワーカー像を求めて. 角川書店
- 6) 新村 拓著：死と病と看護の社会史. 法政大学出版局
- 7) 米山公啓著：「健康」という病. 集英社新書
- 8) 丸田俊彦著：痛みの心理学 疾患中心から患者中心へ. 中央公書
- 9) 石田秀美著：こころとからだ 中国古代における身体 of 思想. 中国書店
- 10) 東洋療法学校協会編：東洋医学概論. 医道の日本社

学生に対する評価

3回のレポートおよび科目試験において総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義Ⅷ（児童・家族福祉論）	杉原 俊二	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（GIO）

児童福祉のみならずソーシャルワーク実践において、そのほとんどで「家族」という単位を考慮に入れるが、家族についての様々な視点について整理されていない場合が多い。そのために、視点を整理し、その中で社会福祉としての「家族」を把握することで、ソーシャルワーク実践への応用を検討する。特に、児童の問題を家族ソーシャルワーク（家族療法を含む）の視点から検討をすることにより、「家族」と援助のための機能を把握する。

到達目標（SBOs）

1. 問題を対象とするフィールドの中から見つけ出し、解決するための手段を考え、それを研究へと結びつけることができる。
2. 「児童福祉」や「家族福祉」の領域でのソーシャルワークを実践するための質的研究ができる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

テキストを参考にしながら、以下の①～③のいずれかについて、振り返りながら、記述をする。①「自分の子ども時代（生まれてから高校を卒業するまでの自分史）」、②「自分の子育て」、③「自分と親との関係」もしくは「自分と子どもとの関係」。字数は2000字以上とする。

第2回レポート課題

以下の①～②のいずれかについて、記述をする。①児童の問題あるいは家族の問題をとりあげ、整理し検討する。自験例でもよいし、文献などから調査した上での検討でもよい。②第1回レポート自分史続編（大学入学あるいは社会人1年目から現在まで）。字数は2000字以上とする。

第3回レポート課題

以下の①～②のいずれかについて、記述をする。①第2回レポートで挙げた問題を解決するための具体的な方策を考え、文章や図にまとめる。②自分史を書いてみて、どのようなことに気付いたのかをまとめる。字数は2000字以上とする。

テキスト

1. 秋田喜代美・能智正博監修（2007）『事例から学ぶはじめての質的研究法 臨床・社会編』東京図書 2,800円 ISBN-13: 978-4489020100
2. 秋田喜代美・能智正博監修（2007）『事例から学ぶはじめての質的研究法 生涯発達編』東京図書 2,800円 ISBN-13: 978-4489020155
3. 高松里（2015）『ライフストーリー・レビュー入門』創元社 1,800円 ISBN-13: 978-4-422-11599-3

参考書・参考資料等

1. 秋田喜代美・能智正博監修（2007）『事例から学ぶはじめての質的研究法 教育・学習編』東京図書
2. 鯨岡峻（2005）『エピソード記述入門—実践と質的研究のために』東京大学出版会
3. 鯨岡峻（2013）『なぜエピソード記述なのか—「接面」の心理学のために』東京大学出版会
4. 高橋規子・小森康永（2012）『終末期と言葉 ナラティブ／当事者』金剛出版

学生に対する評価

レポート課題（60%）、試験（40%）で評価をおこなう。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義IX (アダプテッド・スポーツ論)	正野 知基	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

どのような障がいがあっても、その人に合ったスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境を整えることで、さまざまなチャレンジが可能となり、より豊かな社会的な交流の機会を持つことが期待できる。本講義では、手段としてのスポーツ・レクリエーションを活用するため、「アダプテッド」の意味について考察する。さらに、障がいのある人をめぐる社会的課題を解決の方向へ導き、共生社会の実現に向けて、スポーツ・レクリエーションにどのような貢献ができるのかを考察する。

到達目標 (SBOs)

1. スポーツ・レクリエーションにおけるアダプテッドとは何かについて理解し、アダプテッドの視点を理解できる社会を実現するための課題とその解決策について論じることができる。
2. スポーツ・レクリエーションにおける体や心に障がいを持つ人や子どもたちとの関わりの変遷および現状と課題について理解し、その解決策について論じることができる。
3. スポーツ・レクリエーションにおけるアダプテッドをテーマにした研究のあり方について理解し、今後の展望について論じることができる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

スポーツ・レクリエーションにおけるアダプテッドとは何かについて概説し、アダプテッドの視点を理解できる社会を実現するための課題とその解決策について論じなさい。

第2回レポート課題

スポーツ・レクリエーションにおける体や心に障がいを持つ人や子どもたちとの関わりの変遷および現状と課題について概説し、課題の一つを例としてその解決策について論じなさい。

第3回レポート課題

スポーツ・レクリエーションにおけるアダプテッドをテーマにした研究のあり方について概説し、今後どのような研究にチャレンジしていかなければならないかについて論じなさい。

テキスト

教養としてのアダプテッド体育・スポーツ学, 大修館書店

参考書・参考資料等

学生に対する評価

レポート課題 (60%)、最終試験 (40%) で評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義X（高齢者健康福祉論）	小川 芳徳	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

高齢者の増加とともに介護の問題が社会的な問題として指摘されています。そのため2000年に介護保険制度が施行され幾度となく改正を重ねています。福祉社会の実現のためには介護の予防という観点が重要となってきます。介護の予防には身体活動の維持・向上は欠かせません。高齢者が「体を動かす能力」を維持していくためには、日常的に身体活動ができる施設、設備、さらには運動を指導できる人材が必要となります。指導にあたってはからだを動かす仕組みやその効用を理解すること、さらには、それを福祉の施策に反映させることが大切です。

この科目では身体に着目し、身体の加齢による生理的な変化、身体活動の効用、そして身体活動を指導するにあたってのポイントを理解することを目的にします。

到達目標 (SBOs)

- ① 年齢(加齢)に伴う身体の生理的变化を理解する。
- ② 身体活動のしくみを理解し、説明できる。
- ③ 身体活動の身体への影響を理解し、説明できる。
- ④ 運動を指導する際に注意すべき事項を理解し、説明できる。
- ⑤ 高齢者に対しての身体活動を提示し、その活動の意味・意義を説明することができる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

出生から死に至るまでの身体の生理的变化について説明してください。(①②)

第2回レポート課題

高齢者の身体活動の意味・意義と身体活動の有効性について考察してください。(①②③)

第3回レポート課題

高齢者を対象にトレーニング(身体活動)プログラムを指導するときの注意点を列挙してください。さらに「休養」、「栄養」の観点を含めて考察してください。(①②③④⑤)

テキスト

参考書・参考資料等

1. からだの発達と加齢の科学 (出版社: 大修館書店)
2. 加齢と運動の生理学 (出版社: 朝倉書店)
3. 高齢社会へのステップー健康福祉・労働の視点からー (出版社: 杏林書院)
4. トレーニング生理学 (出版社: 杏林書院)
5. 高齢者の生活機能増進法 (出版社: NAP)
6. 中高年の運動実践ハンドブック (出版社: 昭和堂)
7. 高齢者のための生活関連体力強化法 (出版社: NAP)
8. 高齢者の解剖生理学 (出版社: 秀和システム)

学生に対する評価

3回のレポートを提出・合格し、科目修了試験において総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義XI (介護福祉論)	清水 径子	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

介護は、高齢者や障がい児者などの利用者を全人的 (holistic) にとらえる福祉の観点から、具体的な生活障害の克服や軽減をめざした機能を有する活動であることから、必要な知識も多岐にわたる。介護福祉の専門性は、人間と生活の理解、観察力、介護計画の展開と評価力、相談・助言の能力、緊急及び終末期のケア、関連職種とのチームケア能力、スーパービジョンとアドミニストレーションがあるといわれている。本講義では、介護福祉実践を論理的かつ科学的な観点からとらえることを目的とする。

到達目標 (SBOs)

1. 介護福祉実践の在り方を倫理的観点から説明することができる。
2. 介護の本質について説明ができる。
3. 介護福祉実践の現状と課題が整理でき、地域共生社会における介護福祉実践を考察できる。
4. 介護過程から介護福祉の専門性を理解し、説明することができる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

テキスト①～②を読み、介護の本質や介護福祉実践の在り方を説明し、倫理的観点から介護福祉実践をまとめること。(1～2)

第2回レポート課題

介護福祉実践の現在の諸問題から介護福祉実践を考察すること。現在の諸問題は、介護人材の不足や外国人労働者の現状、孤独死など、テキスト①から選ぶこと。また、諸問題に関する先行研究(論文)を一つ以上読み、問題の所在から地域共生社会における介護福祉実践を探ること。(3)

第3回レポート課題

介護福祉実践では、アセスメント、情報の分析、介護計画立案、介護福祉実践、評価を経て、介護過程を一人の利用者へ科学的に展開する。このような介護過程の科学的な観点をまとめ、介護福祉実践の専門性についてまとめること。(4)

テキスト

- ①淑徳選書5 正義と福祉 競争と自由の限界 結城康博 淑徳大学長谷川仏教文化研究所(978-4-905491-10-1)
 ②ケアの本質 田村真(著), ミルトン・メイヤロフ(著) ゆみる出版(978-4946509117)

参考書・参考資料等

傍らにあること 老いと介護の倫理学 池上哲司 筑摩書房 (978-4-480-01597-6)
 介護福祉学 介護福祉学研究会監修 中央法規(4-8058-4396-9)

学生に対する評価

提出された3回のレポート内容、科目修了試験により総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊講義XII（行動療法論）	前田 直樹	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

近年、心理臨床の分野ではエビデンスベーストの行動療法、応用行動分析、認知行動療法が積極的に行われており、最先端の研究を理解するためにはこの領域における様々な論文を読み、その内容をまとめておく必要がある。本科目では最新の不登校研究を通して、行動療法的アプローチの内容を理解することを目標とする。

到達目標 (SBOs)

- 1) 英文の論文が翻訳できる。
- 2) 不登校に関する英文の研究論文を読み、内容を自分なりにまとめることができる。
- 3) 不登校の行動論的アプローチについて説明することができる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

テキストの p32 “Intervention with the parents”から p36 “Establishing a smooth household routine”まで全文翻訳。

第2回レポート課題

テキスト p36 “Clarifying the date and process for school return”から p40-41 “Escorting the child to school”まで全文翻訳。

第3回レポート課題

テキスト p41 “Leaving the child at school”から P46 “Supporting parents”まで全文翻訳。

テキスト

Heyne, D., & Rollings, S. (2002). *School Refusal*. Oxford: Blackwell Scientific Publications.

参考書・参考資料等

Blagg, N. (1987). *School Phobia and Its treatment*. Croom Helm.
 Fremont, W. P. (2003). School refusal in children and adolescents. *American Family Physician*, 68, 1555–1561.
 Kearney, C.A. (2008). *Helping School Refusal Children and Their Parents*. Oxford University Press.
 Parsons, R. (2009). *Thinking and Acting Like A Behavioral School Counselor*. Corwin.

学生に対する評価

翻訳の内容で評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学研究法特殊講義 I (質的研究)	加藤 謙介	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

質的研究法とは、事象の具体性に即した手法で、観察や面接によって得られたデータに基づく経験科学的なものであり、非計量的なアプローチをいう。具体的には、実験的研究状況を設定しないで、観察や面接を重視し記録を作成し、主に質的データである記録に基づいて分析をするものであり、記録以外の得られた資料も総合して分析する。こうしたアプローチの基礎的方法について学習する。

到達目標 (SBOs)

1. 質的研究における、コーディング、カテゴリ、面接法、観察法、事例研究法、ナラティブ法、Grounded Theory Approach などのデータ収集の方法について理解する。
2. 複雑な状況やその背景にあるデータの意味をとらえることができるようになる。
3. 質的研究に適している課題はどのような課題かを認識し、質的研究のデザインが考えられるようになる。

授業計画 (レポートの課題)

第 1 回レポート課題

質的研究心理学研究 No. 18 (2019 年刊) の中から論文 2 本を選び、そこでの研究方法の特徴と問題について考察しなさい。

第 2 回レポート課題

質的研究心理学研究 No. 19 (2020 年刊) の中から論文 2 本を選び、そこでの研究方法の特徴と問題について考察しなさい。

第 3 回レポート課題

質的研究心理学研究 No. 20 (2021 年刊) の中から論文 2 本を選び、そこでの研究方法の特徴と問題について考察しなさい。

テキスト

1. 質的心理学研究 No. 18 (2019) 新曜社
2. 質的心理学研究 No. 19 (2020) 新曜社
3. 質的心理学研究 No. 20 (2021) 新曜社

参考書・参考資料等

1. 無藤 隆 (他) (編) (2004). 質的心理学：創造的に活用するコツ 新曜社
2. やまだようこ (他) (編) (2013). 質的心理学ハンドブック 新曜社
3. 田垣正晋 (2008). これからはじめる医療・福祉の質的研究入門 中央法規

学生に対する評価

レポートに 3 回合格し、科目修了試験において評価。データ収集法が理解できているか、データの意味を理解しているか、質的研究のデザインを理解しているか、について評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学研究法特殊講義Ⅱ（量的研究）	正野 知基	2	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（GIO）

よりよい支援を考察し、実践するためには、実態把握、潜在ニーズ探索、支援の効果測定・評価等を実証的、科学的に実施できる能力が必要とされる。本科目では、考察・実践の裏づけとなる量的調査・研究に関するデータの基本的な統計分析法（量的データ解析の基礎、回帰分析、分散分析、因子分析等）について学ぶ。統計ソフトとして SPSS を用いるので、所有していない受講生は、各自で学生向けライセンス（IBM SPSS Statistics Standard Grad Pack）を年間契約すること。

到達目標（SBOs）

1. 量的データ解析で用いる基礎的な多変量解析法の基本的な考え方を理解し、回帰分析を実行できる。
2. 量的データ解析で用いる基礎的な多変量解析法の基本的な考え方を理解し、分散分析を実行できる。
3. 量的データ解析で用いる基礎的な多変量解析法の基本的な考え方を理解し、因子分析等が実行できる。
4. 多変量解析法によって導き出された結果を解釈し、考察することができる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

*第1回から第3回のレポート課題および作成に必要なデータ、注意事項についてはオリエンテーション時に説明し、科目選択を確認後にその都度送付する。

第2回レポート課題

*第1回から第3回のレポート課題および作成に必要なデータ、注意事項についてはオリエンテーション時に説明し、科目選択を確認後にその都度送付する。

第3回レポート課題

*第1回から第3回のレポート課題および作成に必要なデータ、注意事項についてはオリエンテーション時に説明し、科目選択を確認後にその都度送付する。

テキスト

社会調査の応用：金井雅之他（編），弘文堂

参考書・参考資料等

社会調査の基礎：篠原清夫他（編），弘文堂

社会調査の基礎〔第3版〕—社会調査 社会福祉調査，弘文堂

あなたもできるデータの処理と解析：岩淵千明（編著），福村出版

*SPSSの分析手法に関する書籍は多数出版されているので、各自でわかりやすいものを入手して参照してください。

学生に対する評価

レポート課題（30%）、最終試験（70%）で評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究 I	小川 芳徳	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

福祉社会の実現に向けた研究テーマを設定し、テーマに沿った測定・調査・試験等を行うことにより新たな知見を提示し、これを論理的手順により整理・解釈することを目指します。さらに、それらの結果から得られた成績を具体的な実践へと展開することを目標とします。論文の執筆にあたっては、研究の背景、課題設定、調査法、それらの結果、そして考察等の一連の過程について順を追って確認します。

到達目標 (SBOs)

- ① 問題となる背景を理解し、説明できる。
- ② 研究テーマを設定できる。
- ③ 研究テーマを解決するための方法を理解し、説明できる。
- ④ 得られた結果をまとめ、整理することができる。
- ⑤ 結果を的確に提示・表現することができる。
- ⑥ 結果について論理的に考察することができる。
- ⑦ ①から⑥について、正確に記述できる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

(①②③)

研究テーマの設定をします。そのため、研究テーマについての先行研究を探し、その内容を整理します。何が確かか、何が新知見になるかを明確に理解し、本研究で取り上げたテーマのオリジナリティーを確認します。テーマにとって適切な方法を決定します。

テキスト

参考書・参考資料等

1. 福祉文化論 (出版社: 有斐閣ブックス)
2. 社会福祉研究法 (出版社: 有斐閣アルマ)

参考図書については各自の研究の進捗状況により提示する。

学生に対する評価

到達目標の達成度を総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究 I	川崎 順子	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

ソーシャルワークの理論と実践にかかわるテーマ、特に①地域を基盤としたソーシャルワーク、②多職種連携やチームアプローチ、③権利擁護・成年後見制度等を主たる研究テーマとする。

社会福祉をはじめ関連領域の動向を把握し、先行研究・文献研究の探索を通して、課題認識を明確にし、研究テーマの妥当性を検討する。研究テーマに応じた研究方法を選定し、研究計画書を作成したうえで、研究を進める。この一連の過程を通して、博士論文作成に必要な知識・技術を修得していく。

到達目標 (SBOs)

- ① 研究テーマを検討し、博士論文の構想がイメージできる。
- ② 具体的な研究スケジュールを作成し、研究計画書に基づいて研究を進めることができる。
- ③ 研究テーマに則した研究方法を選択し、実施に向けて準備することができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

- ・ 関心領域に関連する先行研究を探索し、課題整理を行い、自身の研究テーマの設定意義を明確にする。①
- ・ 研究テーマに基づいた内容を吟味し、独創性を見出し、研究の論点を明確にしていく。①
- ・ 研究テーマに沿った研究方法を選定し、その手法についての有効性を他の研究データを参考に判断する。②
- ・ 研究目的、研究方法を定め、研究計画書を作成する。②
- ・ 研究内容によっては、調査実施に向けた準備を行い、倫理委員会への申請を行う。③
- ・ 進捗状況に応じて、着実に研究を進める。③

テキスト

特に指定しない。主体的に文献検索を行うことを前提とし、研究に関連する論文や文献などを紹介する。

参考書・参考資料等

研究テーマに応じて随時紹介する。

学生に対する評価

研究への熱意、質疑応答、課題レポートの提出状況、発表などを総合的に判断し評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究 I	兒玉 修	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

現代教育の課題について、教育現象を福祉の観点から考察していく博士論文の基本的な枠組みを構想する。まず、研究テーマに関する先行研究を整理し、仮説設定のための予備的作業を行う。その際、教育現象を福祉の観点から捉える（分析する）意義や重要性を明確にする。それらを通して、教育福祉研究の課題と方法についての学問的知見を深め、問題意識を鮮明にする。なお、対象とする教育現象は学校教育に限定されない。

到達目標 (SBOs)

- 1) 教育現象を福祉の観点から考察する意義や重要性について理解している。
- 2) 先行研究の整理に基づいて、旧来とは異なる新たな視点から仮説を設定できる。
- 3) 科学的な探究（研究）の方法について理解している。

授業計画（論文作成の計画）

1 年次

- 1) 自己の問題関心に基づいて、研究の基本的な枠組みを構想する。
- 2) 研究テーマにかかわる先行研究（資料・文献）の収集・分析し、レポートにまとめる。
- 3) 2 年次以降の研究の見通しを立てる。

テキスト

特に指定しない。研究の進展に応じて適宜指定する。

参考書・参考資料等

特に指定しない。研究の進展に応じて適宜指定する。

学生に対する評価

研究の進捗状況、スクリーニング、教員への応答状況、提出物等に基づいて評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究 I	清水 径子	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

概要) 介護福祉及びソーシャルワーク領域において、高齢者や障がい者、介護者などへの支援を主とした研究テーマを設定し、よりよい支援を模索する。博士論文の基本的な枠組みを構想する。

目標) 先行研究・文献を整理し、研究テーマの設定、研究目的の明確化、研究方法の選定を通じて、研究構想を明確にし、研究計画の作成ができる。研究倫理を遵守した調査方法を理解する。

到達目標 (SBOs)

1. 研究テーマについての文献を整理し、研究の背景や現状が説明できる。
2. 研究目的を明確にし、研究の意義・新規性が説明できる。
3. 研究倫理を理解し、調査研究を進める準備ができる。
4. 博士論文の枠組みを理解し、研究計画が立案できる。

授業計画 (論文作成の計画)

1 年次

- ・テーマに関連する文献・先行研究を読み、課題整理を行う。レビュー論文を作成することが望ましい。(1)
- ・先行研究を精読した上で、テーマを具体化し、研究の意義や新規性を明確化する。(2)
- ・研究の背景、目的、研究方法を具体化し、研究計画を作成する。(1～4)
- ・調査等を実施する場合は、調査内容を事前に本学の倫理委員会への申請が必要となる。(3)
- ・論文執筆有資格者認定条件・予備審査条件等を理解し、博士論文作成への研究構想ができる(4)

テキスト

特に指定しない。研究テーマに応じて提案する。また、自ら積極的に Cinii や Google Scholar 等より論文検索・収集に取り組むことが期待される。

参考書・参考資料等

特に指定しない。研究テーマに応じて紹介する。

学生に対する評価

研究テーマ発表会・研究構想発表会のレジュメ、研究計画書、研究進捗状況報告書などの各種課題の内容及び提出状況、スクーリング・発表会の取り組み姿勢(スライド等)に基づき、総合的に判断し評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究 I	正野 知基	2	S	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

QOL (生活の質) を向上させるための手段としてのレクリエーション, 身体活動・健康運動, スポーツの福祉分野における有用性について考察していくことを主たる研究領域とする。

博士論文作成を目指して, まず, 各自の持つ問題 (研究課題) の具体化と解決へ向けての研究手順・方法を理解する。次に, 研究目的を具体的・現実的なものとし, 博士論文としての意義とオリジナリティの確認 (先行研究のレビュー) を行う。そして, 研究の問題点及び限界を確認し, 研究計画を立案する。研究計画には主論文 (博士論文) の理論構築に必要な関連 (参考) 論文の研究計画も含む。これら一連の過程を通して, 博士論文作成のために必要な知識・技術を修得する。

到達目標 (SBOs)

- ・各自の持つ問題 (研究課題) の具体化と解決へ向けての研究手順・方法を理解し, 実行できる。
- ・研究目的を具体的・現実的なものとし, 博士論文としての意義とオリジナリティの確認ができる。
- ・研究の問題点及び限界を確認し, 研究計画が立案できる。

授業計画 (論文作成の計画)

1 年次

- ・各自の持つ問題 (研究課題) の具体化へ向けた作業を行う。
- ・具体化した研究課題の解決へ向けての研究手順・方法を学び, 理解する。
- ・研究目的を具体的・現実的なものとし, 博士論文としての意義とオリジナリティを確認するために先行研究のレビューを行い, レビュー論文 (総説) を書く。
- ・研究の問題点及び限界を確認し, 研究計画を立案する。研究計画には主論文 (博士論文) の理論構築に必要な関連 (参考) 論文の研究計画も含む。

テキスト

特に指定はしないが, 個々の研究テーマに関連した文献を必要に応じて紹介する。

参考書・参考資料等

必要に応じて随時紹介するが, 院生自らも積極的に文献検索・収集を行うこと。

学生に対する評価

研究課題の具体化ができているか, 解決へ向けての研究手順・方法を理解して実行できているか, 研究目的を具体的・現実的なものにできているか, 博士論文としての意義とオリジナリティの確認ができているか, 研究の問題点及び限界を確認して研究計画が立案できているかを, スクーリングへの参加の状況・取り組む姿勢も含めて総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究 I	前田 直樹	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

科学的な心理学である行動理論、行動療法、行動分析に関する研究を行い、博士論文作成に向け、研究テーマに関するレビュー研究を行う。レビュー研究では英文論文が基本になるため、英語は必須である。

到達目標 (SBOs)

1. 行動理論、行動分析、行動療法に関する研究を理解することができる。
2. 研究テーマに関してレビュー論文を作成することができる。
3. 自分の研究に関する内容を他の研究者に適切に説明できる。

授業計画 (論文作成の計画)

1 年次

1. 研究計画に従ってレビュー研究を行い、レビュー論文を作成する。
2. 研究計画に従い必要なデータの収集を行う。
3. レビュー論文を学術誌に投稿する。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

・必要に応じて随時紹介する。基本となる主なものは以下のとおり。

Blagg, N. (1987). *School Phobia and Its Treatment*. Croom Helm.

Haslam, N. (2016). Concept creep: Psychology's expanding concepts of harm and pathology. *Psychological Inquiry*, 27, 1–17.

Heyne, D. &, Rollings, S., (2002). *School Refusal*. BPS Blackwell.

ジェームズメイザー (2009). *メイザーの学習と行動*, 二弊社.

森田正馬 (2014). *生の欲望*. 白揚社

Parsons, R. (2009). *Thinking and Acting Like A Behavioral School Counselor*. Corwin.

学生に対する評価

論文の内容で評価を行う。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究 I	横山 裕	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

我が国における福祉思想を明らかにすべく、アルファベット文化ベースの福祉的価値観と対比すべく漢字文化における福祉的価値観に焦点をあてた研究を行い、博士論文作成に向け、研究テーマに関する漢字文献資料の読解を行う。

到達目標 (SBOs)

1. 原典資料が読解できる。
2. 先行研究をもとに独自の視点を明確化できる。
3. 学術研究を行うにみあう倫理観を有している。

授業計画 (論文作成の計画)

1 年次

1. 研究テーマに関する諸概念を整理する。
2. 文献・資料を渉猟し、読み込みを行う。
3. 2 年次以降の研究の見通しを立てる。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

必要に応じて随時紹介する。

学生に対する評価

研究の進捗状況（2 年次以降の研究の見通しの有無）によって評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究 I	渡邊 一平	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

学際的領域である社会福祉学において、各自が興味関心を持った内容を「研究」という技法に基づき、思考・表現ができるように学習を行う。

研究では普遍妥当性が求められるが、そのための思考方法、研究手法、表現方法について、学部あるいは修士課程で培った各自の専門領域をさらなる深みへと導くための掘り下げを行う。同時に多角的な視点・手法からのアプローチを修得する。

さらに具体的な研究手法として、要素分析法、文献研究、調査研究等があるが、全て反証に対して開かれていることを認識した上で思索を深める。

到達目標 (SBOs)

1. 各自のテーマを「科学的方法」というフィールド内で作業できるよう、具体的なテーマに変換することができる。
2. 関連領域の論文、書籍、資料を検索・収集し、記載内容を要約することができる。
3. 収集した論文等を基に、自身のテーマの起承転結（ストーリー）を研究デザインとして構築することができる。

授業計画（論文作成の計画）

1年次

1. 関連領域の論文等を要約し、現在までに何が解明されていて、何が疑問（課題）として残っているのかについて理解する。
2. 自身のテーマについて何を明らかにしようとしているのか、具体的かつ的確に理解する。
3. その疑問（課題）の一端を解決するためのアプローチ手法について考察する。
4. 関連研究成果を学術雑誌へ投稿する（原著論文）。

テキスト

特に指定はしない。個々の研究テーマに必要なと思われる資料等を紹介する。

参考書・参考資料等

テーマに応じて随時紹介する。

学生に対する評価

スクーリング時の姿勢および提出物、担当教員とのやり取り等を総合的に判断し、評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅱ	小川 芳徳	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

福祉社会の実現に向けた研究テーマを設定し、テーマに沿った測定・調査・試験等を行うことにより新たな知見を提示し、これを論理的手順により整理・解釈することを目指します。さらに、それらの結果から得られた成績を具体的な実践へと展開することを目標とします。論文の執筆にあたっては、研究の背景、課題設定、調査法、それらの結果、そして考察等の一連の過程について順を追って確認します。

到達目標 (SBOs)

- ⑧ 問題となる背景を理解し、説明できる。
- ⑨ 研究テーマを設定できる。
- ⑩ 研究テーマを解決するための方法を理解し、説明できる。
- ⑪ 得られた結果をまとめ、整理することができる。
- ⑫ 結果を的確に表現することができる。
- ⑬ 結果について論理的に考察することができる。
- ⑭ ①から⑥について、正確に記述できる。

授業計画 (論文作成の計画)

2年次

(③④)

テーマに対し適切かつ妥当な方法を決定し、その方法を実行に移していきます。

テキスト

参考書・参考資料等

研究の進捗状況により提示する。

学生に対する評価

到達目標の達成度を総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅱ	川崎 順子	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

社会福祉学特殊研究Ⅰで取り組んだ研究を踏まえ、研究計画に基づき研究を進める。研究の進捗状況に応じて、研究全体の課題を再検討し、軌道修正を行い、博士論文の構成を明確にしていく。博士論文執筆有資格者認定条件を満たせるように、これまでの研究成果を論文にまとめ、学会発表・論文投稿を行う。

到達目標 (SBOs)

1. 研究の進捗状況を確認し、計画的に研究を進めることができる。
2. 研究方法に基づいて実施した内容を適切に分析・整理することができる。
3. これまでの研究成果を部分的に抽出したうえで、論文を作成し、投稿することができる。
4. 研究の独自性を明確にし、論理力、考察力を高めることができる。

授業計画 (論文作成の計画)

2年次

- ・研究計画にそった進捗状況を確認し、必要に応じて研究スケジュールの修正を行う。①
- ・実施した研究方法の結果を分析し、得られたデータや知見を整理し、考察する。②
- ・これまでの研究成果を論文にまとめる作業を通して、博士論文の構成を具体化していく。③
- ・一定の研究成果を論文にまとめ、学会発表・学術誌への投稿を試みる。③
- ・博士論文の独自性について議論しながら、論点を整理し論文を作成していく。④

テキスト

特に指定しない。研究の進捗状況に応じて必要な文献などを紹介する。

参考書・参考資料等

研究テーマに応じて随時紹介する。

学生に対する評価

研究の進捗状況、論文投稿状況、提出物、質疑応答、発表などを総合的に判断し、評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅱ	兒玉 修	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

社会福祉学特殊研究Ⅰでの学習や研究を踏まえ、次のような手順で、教育現象を福祉の観点から考察していく研究テーマの追求を進める。

- 1) 選択したテーマに関する先行研究を整理し、現在までに明らかにされている知見をまとめる。
- 2) 選択した研究テーマの学術的及び社会的意義を整理するとともに、当該テーマの研究可能性（課題の解決可能性）を確認する。
- 3) 研究テーマ（目的）に応じた研究の方法を吟味し、仮説を検証する手順を明確にする。

到達目標 (SBOs)

- 2) 選択したテーマについて、それが関連する学問領域のなかでどのような位置にあるかを理解している。
- 2) 選択したテーマの独自性・独創性がどこにあるかを、他の学術的な研究成果との対比や社会的な意義から説明できる。
- 3) 研究テーマ（目的）に応じた研究の方法を理論的に明確化できる。

授業計画（論文作成の計画）

1年次

- 4) 先行研究の蓄積・整理に基づいて、研究テーマとともに仮説を明確にする。
- 5) 仮説を検証するための方法、及び、説得力ある論証を組み立てるための手順を明確にする。
- 6) 研究テーマにかかわる資料・文献の収集・分析を進める。
- 7) 論文の基本的枠組みをレポートにまとめる。

テキスト

特に指定しない。研究の進展に応じて適宜指定する。

参考書・参考資料等

特に指定しない。研究の進展に応じて適宜指定する。

学生に対する評価

研究の進捗状況、スクーリング、教員への応答状況、提出物等に基づいて評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅱ	清水 径子	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

社会福祉学特殊研究Ⅰでの研究計画に基づき、調査等を実施し、論文にまとめ、学術誌に投稿できる。随時、研究計画を見直し、博士論文の構成を明確にする。また、先行研究のキーワードを広げ、関連論文を読み、様々な視点からテーマを捉える。

到達目標 (SBOs)

5. 研究計画に沿って調査研究を進めることができる。
6. 調査結果をまとめ、論理的に論文をまとめられる。
7. 学会誌の執筆規定に沿って原著論文を作成し、投稿する。
8. 投稿論文の査読に対して、適切な対応ができる。
9. 博士論文の構成が説明できる。

授業計画 (論文作成の計画)

2年次

- ・研究を継続するにあたり倫理委員会の継続申請を行う。(1)
- ・研究計画に沿って研究を進める。(1)
- ・実施した研究結果を分析し、考察する。(2)
- ・博士論執筆有資格者認定条件・予備審査条件を満たせるよう、完成した論文を学術誌に投稿する。(3)
- ・査読結果の内容を踏まえて論文の質を高め、再投稿する。(4)
- ・博士論文の意義や新規性について議論を重ね、論点を明確化する。(5)

テキスト

特に指定しない。研究の進捗状況に応じて文献等を紹介する。
PubMed等の論文検索・収集に取り組み、海外の論文にも触れ、自身で和訳することが期待される。

参考書・参考資料等

特に指定しない。研究テーマに応じて紹介する。

学生に対する評価

研究成果発表会・中間発表会のレジュメ、研究計画書、進捗状況報告書などの各種課題の内容及び提出状況、スクーリング・発表会の取り組み姿勢(スライド等)に基づき、総合的に判断し評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅱ	正野 知基	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

社会福祉学特殊研究Ⅰで立案した研究計画に沿って、主論文作成に向けた関連研究を実施する。その成果の学会発表、論文投稿を積極的に行う。なお、研究計画に問題等が発生した場合は適宜見直し、修正を行う。これら一連の過程を通して、博士論文の基礎的な骨格となる関連原著論文作成の知識・技術を修得する。

到達目標 (SBOs)

- ・立案した研究計画に沿って、主論文作成に向けた関連研究を実施できるようになる。
- ・実施した関連研究の成果を学会発表できるようになる。
- ・実施した関連研究の成果を学術雑誌へ原著論文として投稿できるようになる。
- ・投稿した原著論文の査読結果に対する適切な対応ができるようになる。

授業計画 (論文作成の計画)

2年次

- ・立案した研究計画に沿って、主論文作成に向けた関連研究を実施する。
- ・研究成果の学会発表、原著論文を作成して学術雑誌への投稿を積極的に行う。
- ・投稿した原著論文の査読結果に対して適切な対応を行う。

テキスト

特に指定はしないが、個々の研究テーマに関連した文献を必要に応じて紹介する。

参考書・参考資料等

必要に応じて随時紹介するが、院生自らも積極的に文献検索・収集を行うこと。

学生に対する評価

研究の進捗状況 (実施した関連研究の学会発表、学術雑誌へ原著論文としての投稿を含む)、スクーリングへの参加の状況・取り組む姿勢も含めて総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅱ	前田 直樹	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

立案した研究計画に従って研究を行い、研究内容を論文にまとめていく。まとめた論文を学会誌に投稿し、内容を外部の専門家に審査してもらう。

到達目標 (SBOs)

- 1) 研究計画に従って研究を進めることができる。
- 2) APA のフォーマットを使いこなすことができる。
- 3) 投稿論文の査読に対して、適切な対応ができる。

授業計画 (論文作成の計画)

2年次

- 1) 研究計画に従って研究を進めていく。
- 2) 完成した論文を学術誌に投稿する。
- 3) 査読結果の内容を踏まえて論文の質を高め、可能であれば再投稿する。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

自分の研究テーマに関連した文献を使用する。

学生に対する評価

論文の内容で評価を行う。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅱ	横山 裕	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

1年時に作成した研究計画に沿って研究を行い、論文にまとめ、学術誌に投稿する。

到達目標 (SBOs)

1. 研究計画に基づいて研究を進めることができる。
2. 学会誌に投稿できる論文が執筆できる。
3. 執筆する博士論文の独自性・新規性について説明できる。

授業計画 (論文作成の計画)

2年次

1. 研究計画に従って研究を進めていく。
2. 学会誌に投稿する。
3. 3年次以降の研究の見通を立てる。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

必要に応じて随時紹介する。

学生に対する評価

研究の進捗状況 (論文投稿、3年次以降の研究の見通しの有無) によって評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅱ	渡邊 一平	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

学際的領域である社会福祉学において、各自が興味関心を持った内容を「研究」という技法に基づき、思考・表現ができるように学習を行う。

研究では普遍妥当性が求められるが、そのための思考方法、研究手法、表現方法について、学部あるいは修士課程で培った各自の専門領域をさらなる深みへと導くための掘り下げを行う。同時に多角的な視点・手法からのアプローチを修得する。

さらに具体的な研究手法として、要素分析法、文献研究、調査研究等があるが、全て反証に対して開かれていることを認識した上で思索を深める（特殊研究Ⅰと同様の内容である）。

到達目標 (SBOs)

1. 各自のテーマを「科学的方法」というフィールド内で作業できるよう、具体的なテーマに変換することができる。
2. 関連領域の論文、書籍、資料を検索・収集し、記載内容を要約することができる。
3. 以上の内容を基盤として、関連研究を実施できる。
4. 関連研究の結果等から自身のテーマの起承転結（ストーリー）を研究でデザインとして再構築することができる。

授業計画（論文作成の計画）

2年次

特殊研究Ⅰに引き続き、

1. 関連領域の論文等を要約し、現在までに何が解明されていて、何が疑問（課題）として残っているのかについて理解する。
2. 立案した研究計画に基づき、関連研究を実施する。
3. 関連研究成果を学術雑誌へ投稿する（原著論文）。

テキスト

特に指定はしない。個々の研究テーマに必要なと思われる資料等を紹介する。

参考書・参考資料等

テーマに応じて随時紹介する。

学生に対する評価

スクーリング時の姿勢および提出物、担当教員とのやり取り等を総合的に判断し、評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅲ	小川 芳徳	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

福祉社会の実現に向けた研究テーマを設定し、テーマに沿った測定・調査・試験等を行うことにより新たな知見を提示し、これを論理的手順により整理・解釈することを目指します。さらに、それらの結果から得られた成績を具体的な実践へと展開することを目標とします。論文の執筆にあたっては、研究の背景、課題設定、調査法、それらの結果、そして考察等の一連の過程について順を追って確認します。

到達目標 (SBOs)

- ⑮ 問題となる背景を理解し、説明できる。
- ⑯ 研究テーマを設定できる。
- ⑰ 研究テーマを解決するための方法を理解し、説明できる。
- ⑱ 得られた結果をまとめ、整理することができる。
- ⑲ 結果を的確に表現することができる。
- ⑳ 結果について論理的に考察することができる。
- 21 ①から⑥について、正確に記述できる。

授業計画 (論文作成の計画)

3年次

(①②③④⑤⑥⑦)

- 1 得られた研究結果を分析し、考察する。
- 2 これらの成績を論理的に記述する。
- 3 研究成果を公表する。

テキスト

参考書・参考資料等

研究の進捗状況により提示する。

学生に対する評価

到達目標の達成度を総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅲ	川崎 順子	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

社会福祉学特殊研究Ⅰ、Ⅱで取り組んできた研究成果を踏まえ、研究計画に基づき、予備審査から本審査に向けて順調に研究を進める。研究の独自性や新規性を議論し、博士論文全体の構成を再検討し、完成を目指す。本審査の受験要件を満たすための準備を進める。

到達目標 (SBOs)

1. 研究の進捗状況を確認したうえで、課題を整理し、博士論文を完成することができる。
2. 博士論文の全体構成の連関を理解し、論理性ある論文として精度をあげることができる。
3. 独自性ある論文として研究成果をまとめ、社会に発信することができる。

授業計画 (論文作成の計画)

3年次

- ・論文の完成に向けて、研究スケジュールの確認を行い、前期8月予備審査、後期2月本審査の準備を進める。①
- ・予備審査で明らかになった課題を整理し、論文構成・内容を吟味し、考察の的確性や論理性を検証する。②
- ・博士論文を完成させ、プレゼンテーション力を発揮する。③
- ・研究成果を学会・学術誌へ投稿する。③

テキスト

特に指定しない。研究の進捗状況に応じて必要な文献を紹介する。

参考書・参考資料等

研究テーマに応じて随時紹介する。

学生に対する評価

研究の進捗状況、投稿論文への取り組み状況、提出物、発表、博士論文の内容などを総合的に判断し、評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅲ	兒玉 修	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

社会福祉学特殊研究Ⅰ、Ⅱでの学習や研究を踏まえ、研究の意義、研究の方法、研究の成果を確認し、博士論文としてまとめる。具体的には、次のような手順をとる。

- 1) 研究の意義（独自性）、方法、成果の相互の整合性を検討する。
- 2) 研究によって得られた知見を整理し、研究の到達点、残された課題を明確にする。
- 3) 研究成果を論文としてまとめると同時に、学会・研究会等の機関誌への投稿を試みる

到達目標 (SBOs)

- 1) 研究の目的・意義、方法、成果のそれぞれの論理的整合性を確認・修正できるとともに、研究の独自性について説明できる。
- 2) 設定された仮説がどれほど検証されたかを吟味することを通して、残された課題を明確にできる。
- 3) 研究成果を説得力のある論文としてまとめると同時に、その成果を社会に発信することができる。

授業計画（論文作成の計画）

1年次

- 1) 予備審査及び本審査を中心とした研究スケジュールのなかで、論文の作成を進める。
- 2) 説得力のあるスタイル（論証方法）で論文を作成する。
- 3) 予備審査で指摘された問題について考察を進め、その問題を克服する。
- 4) 博士論文として完成させ、その成果を学会・研究会等の機関誌へ投稿する。

テキスト

特に指定しない。研究の進展に応じて適宜指定する。

参考書・参考資料等

特に指定しない。研究の進展に応じて適宜指定する。

学生に対する評価

研究の進捗状況、スクーリング、教員への応答状況、予備審査の結果、提出物、外部への投稿状況等に基づいて評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅲ	清水 径子	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

社会福祉学特殊研究Ⅰ・Ⅱで取り組んできた研究成果を踏まえ、研究計画に基づき、博士論文作成に向けて研究を進める。自身の投稿論文に基づき、博士論文として構成し、研究の意義、新規性、目的、方法、研究成果など研究としての論理的整合性を検討する。

到達目標 (SBOs)

1. 研究の進捗状況に合わせ、課題を整理し、研究を進めることができる。
2. 研究成果を学会誌に投稿する。
3. 博士論文の構成を理解し、論理的整合性を確認・修正できる。
4. 博士論文を完成させる。

授業計画 (論文作成の計画)

3年次

- ・研究を継続するにあたり倫理委員会の継続申請を行う。(1)
- ・予備審査に向け、学会誌に投稿する。(2)
- ・予備審査に向け、博士論文を執筆する。(3)
- ・本審査に向け、博士論文を修正し、完成させる。
- ・審査の条件を満たしていない場合は、その都度研究スケジュールを調整し、博士論文完成に向け、研究テーマに関する議論を重ねる。(1)

テキスト

特に指定しない。研究の進捗状況に応じて文献等を紹介する。

参考書・参考資料等

特に指定しない。研究テーマに応じて紹介する。

学生に対する評価

発表会のレジュメ、研究計画書、学会投稿論文などの内容及び提出状況、スクーリング・発表会の取り組み姿勢(スライド等)に基づき、総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅲ	正野 知基	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

社会福祉学特殊研究Ⅱに引き続いて、主論文作成に向けた関連研究を実施し、その成果の学会発表、原著論文投稿を積極的に行う。同時に、立案した研究計画に沿って、関連研究の成果を基に主論文に関する研究を実施し、博士論文としてまとめる。これら一連の過程を通して、作成した関連原著論文を基に、博士論文としてまとめるための知識・技術を修得する。

到達目標 (SBOs)

- ・関連研究の成果を基に、主論文に関する研究を実施できるようになる。
- ・関連原著論文を基に、博士論文としてまとめることができる。

授業計画 (論文作成の計画)

3年次

- ・研究計画に沿って、主論文作成に向けた関連研究を実施する。
- ・研究成果の学会発表、原著論文を作成して学術雑誌への投稿を積極的に行う。
- ・投稿した原著論文の査読結果に対して適切な対応を行う。
- ・研究計画に沿って、関連研究の成果を基に主論文に関する研究を実施し、博士論文としてまとめる。

テキスト

特に指定はしないが、個々の研究テーマに関連した文献を必要に応じて紹介する。

参考書・参考資料等

必要に応じて随時紹介するが、院生自らも積極的に文献検索・収集を行うこと。

学生に対する評価

研究の進捗状況 (実施した関連研究の学会発表、学術雑誌へ原著論文としての投稿、博士論文を含む)、スクーリングへの参加の状況・取り組む姿勢も含めて総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅲ	前田 直樹	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

これまでに学術誌に投稿した論文をまとめ、博士論文を完成させる。

到達目標 (SBOs)

- 1) 外部の専門家の指摘を理解し、論文をまとめることができる。
- 2) 英文で論文が執筆できる。
- 3) 研究の成果を国内外で発表することができる。

授業計画 (論文作成の計画)

3年次

- 1) 研究論文の一部を英文で学術誌に投稿する。
- 2) 査読結果の内容を踏まえて論文の質を高め、可能であれば再投稿する。
- 3) 投稿した論文をまとめて博士論文を完成させる。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

自分の研究テーマに関連した文献を使用する。

学生に対する評価

博士論文の内容で評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅲ	横山 裕	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

これまでに学術誌に投稿した論文を基にして博士論文を完成させる。

到達目標 (SBOs)

1. 研究計画に沿って博士論文を完成できる。
2. 執筆した博士論文の学術的意義について説明できる。
3. 博士論文の研究成果を社会に発信することができる。

授業計画 (論文作成の計画)

3年次

1. 研究論文の一部を学術誌に投稿する。
2. 投稿論文を基にして博士論文を執筆する。
3. 博士論文全体の論理的整合性を確認し、完成させる。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

必要に応じて随時紹介する。

学生に対する評価

博士論文の内容で評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特殊研究Ⅲ	渡邊 一平	2	S	必修

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

学際的領域である社会福祉学において、各自が興味関心を持った内容を「研究」という技法に基づき、思考・表現ができるように学習を行う。

研究では普遍妥当性が求められるが、そのための思考方法、研究手法、表現方法について、学部あるいは修士課程で培った各自の専門領域をさらなる深みへと導くための掘り下げを行う。同時に多角的な視点・手法からのアプローチを修得する。

さらに具体的な研究手法として、要素分析法、文献研究、調査研究等があるが、全て反証に対して開かれていることを認識した上で思索を深める（特殊研究Ⅰと同様の内容である）。

到達目標 (SBOs)

1. 関連研究を実施できる。
2. 関連研究を実施する中で浮上する疑問等について思索を深めることができる。
3. 関連研究の論理的整合性を踏まえて自身のテーマの起承転結（ストーリー）を研究デザインとして構築し、博士論文を作成することができる。

授業計画（論文作成の計画）

3年次

特殊研究Ⅰ、Ⅱに引き続き、

1. 立案した研究計画に基づき、関連研究を実施する。
2. 関連研究成果の学会発表および学術雑誌への投稿を行う（原著論文）。
3. 関連論文を博士論文として構築する。

テキスト

特に指定はしない。個々の研究テーマに必要と思われる資料等を紹介する。

参考書・参考資料等

テーマに応じて随時紹介する。

学生に対する評価

スクーリング時の姿勢および提出物、担当教員とのやり取り等を総合的に判断し、評価する。